

グリッド/インターロックタイプ

SR-IL II

ユニット(ユニタイズド)化による安定した品質と高い精度。
部材同士の嵌合によるインターロック方式を採用した
大型標準ユニットカーテンウォール。

インターロック機構による ジョイント方式

カーテンウォールユニット間(縦方向・横方向とも)を、アルミ押し出し型材の連続したかみ合わせ断面と、オープンジョイント方式によりジョイントするインターロック方式を採用。工場生産方式により、安定した品質と高い精度が得られます。

ユニタイズド化による施工の省力化

ユニットの持つ利点をさらに押し進めたユニタイズド化(=ガラス、耐火ボード等の工場取り付け)を可能にしました。現場施工の省力化や簡素化に加え、工程や労務の平準化といった生産管理の合理化に貢献します。

等圧工法による高い水密性

水密シールに頼らないオープンジョイント方式。ユニット間を等圧工法により処理していますので、安定した高い水密性が得られます。

部材のスリム化

躯体とユニットの固定をゲルバー梁として設計していますので、建築意匠に合わせた部材のスリム化が可能です。

耐候性、耐震性への配慮

内外ガスケット方式の採用により、シールの破断や損傷による性能の低下の心配がなくなりました。乾式化も含め、メンテナンスの低減に配慮した機構です。

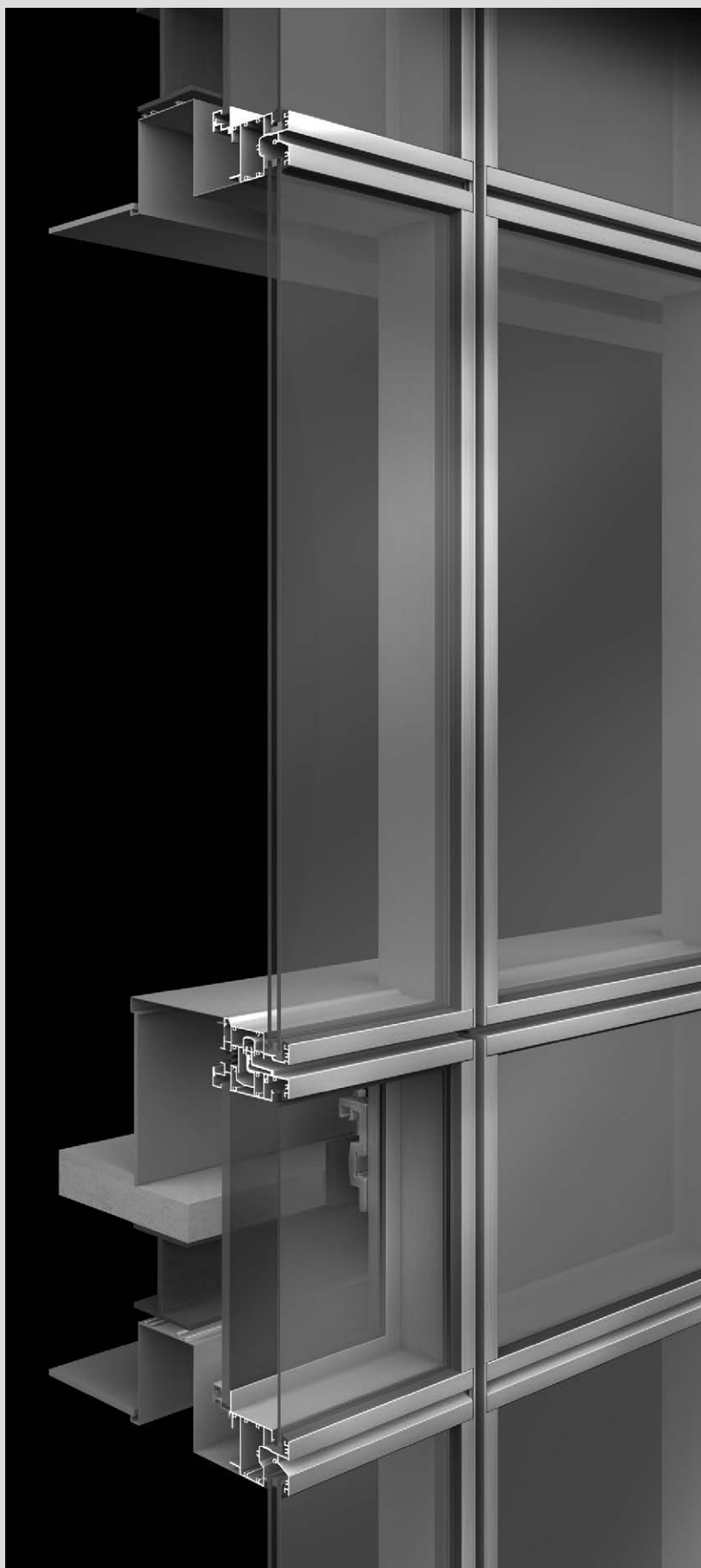
性能

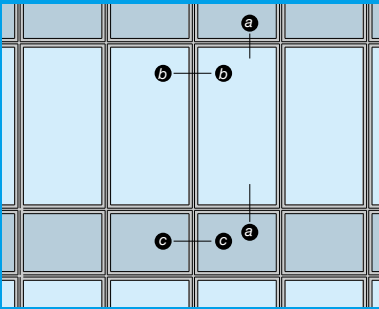
耐風圧性 2800Pa

気密性 0.5m³/h・m²

水密性 FIX部 1000Pa(中央値)
(ガラス回り・内外ガスケット)

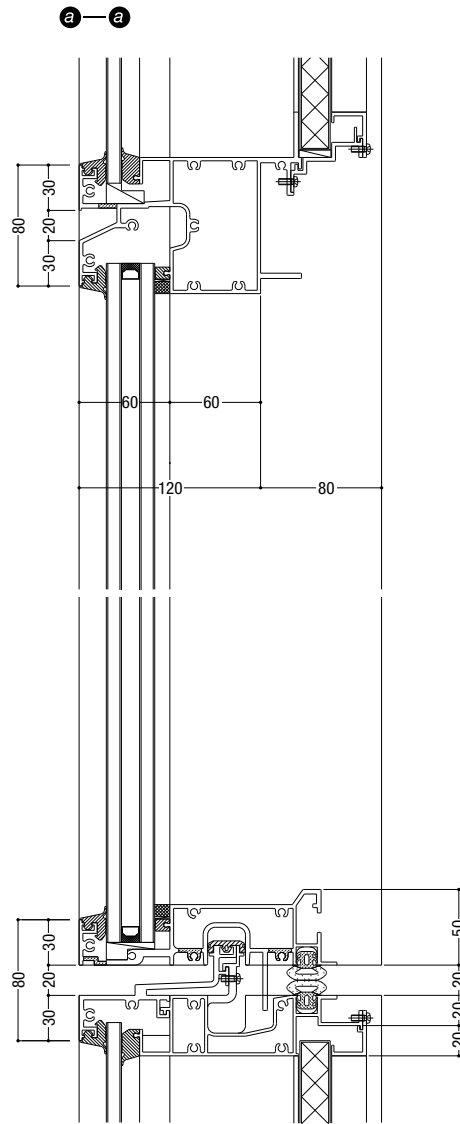
層間変位 1/300の層間変位に対しカーテンウォール構成材に何ら損傷のないこと。1/150の層間変位に対し破損・脱落がないこと。





基本性能

耐風圧性	2800Pa (W・H寸法により強度が変わります)
気密性	0.5m³/h・m²
水密性	1000Pa(中央値)
層間変位	1/300の層間変位に対しカーテンウォール構成材に何ら損傷のないこと。1/100の層間変位に対し破損・脱落がないこと。



b-b 開口部

c-c 腰部

